

市民ネットワーク

千葉市議会
2022(令和4)年第4回定例会 (11月29日~12月16日)

いわさき明子 山田京子

の議会報告

市民ネットワーク
議会発言
←詳しくはこちらへ



いわさき明子

山田京子

市民の暮らしや気持ちにより添った施策を

今議会では、原油価格や物価の高騰に対応するための議案が市長から多数提案され、市民ネットワークは賛成しました。物価高騰がコロナ禍で逼迫する市民生活に追い打ちをかける中、市民の声に耳を傾けながら必要な施策を進めることを市に求めました。また、新たな

「千葉市こども基本条例」の制定に向け、検討委員会を設置することが決まりました。こどもの人権を第一に考え、貧困の連鎖や虐待を無くすためのまちづくりに向けた大きな一歩です。実効性のある条例策定に向け、今後も市民の声を集め、届けていきます。

山田京子

独自の視点で
行政に提案

いわさき明子

市民活動を支える「専門員」のいる窓口を

千葉市には市民活動支援センターという施設がありますが、中央区のビルの9階にあり、若葉区民にとっては少し遠い場所です。お隣の四街道市は若葉区の6割の人口にもかかわらず、「みんなで地域づくりセンター」を置き、中間支援組織に委託しています。常勤2人、パート8人で、市民活動の相談に寄り添うだけでなく、地域に飛び込んで活動を支援しています。

私たちは以前から、「各区に1か所市民活動支援センターを！」と千葉市に要望していたのですが、このたび、若葉区役所に「ぷらっとWAKABA」という窓口ができたので、詳細を聞きました。

区としては「地域活動団体などが連携し、補いながらそれぞれの課題解決に結びつけるための支援体制の強化が必要である」と考え、区の自主事業として始めた。情報収集・発信の広聴機能、NPOをはじめ企業や学校等の地域で活動する団体としての橋渡しを行うハブとなり、地域が連携して課題を解決できるよう支援を行う。市民が“ぷらっと”気軽に立ち寄れる区役所をめざすとのこと。

しかし、今いる職員だけでとても手が足りているとは思えません。今後、市民活動支援専門の人員をしっかりと配置するよう求めました。

千城台公園をインクルーシブな公園に

千城台公園の遊具が更新時期を迎えていると聞き、それなら今がチャンス！とインクルーシブな遊具(※障がいがあってもなくても一緒に遊べる遊具)を備えてほしいと質問をしました。

市は、「公園が地域に果たす役割はさらに大きくなっていくと考えられることから、インクルーシブな環境整備について検討していく」との答弁でした。また、おむつ替えの必要な児童・生徒は、ユニバーサルシートのあるトイレがないと遊びに来られない



▲幕張の豊砂公園で人気のインクルーシブ遊具

ので、新しくできる公民館か図書館への設置を求めました。

この整備を通して千城台地域をモデルとして若葉区がインクルーシブで活気のある街に変身してほしいと思います。



使うときは



▲ユニバーサルシート(千葉市HPより)

市民と市職員の間で共感が広がったら

市が発信する様々な情報を、きちんと受け取れる人はごく一部です。必要な人に確実に情報を届けられるようになれば、市がめざすまちづくりへの理解や共感が深まり、協力者も増えるのではないのでしょうか。市の公式LINE登録者を増やすことと発信内容の充実、スマホ初心者向け講習と受講者のフォローアップなどを要望しました。

野菜もエネルギーも地産地消をめざそう




気候危機による自然災害が人命を脅かすようになり、一人ひとりが今できることをする必要があります。市民が気軽に参加できる「ちばしエコチャレンジ」の参加者を増やすよう要望しました。また、太陽光発電の下で作物を育てる「ソーラーシェアリング(写真)」は、耕作放棄地解消とエネルギーの地産地消を同時に図れる仕組みです。匝瑳市などの成功事例を研究し、今後活かすよう提案しました。

健康で長生きしたいなら「食」を大切に

「健康で長生き」は、誰もが望むことと思います。そのためには、大人に向けた食育が必要です。普段の食事で気をつける事などを、働き盛りの方でも見やすい動画にまとめるよう提案しました。また、いつまでも自分の歯で食べられるよう、40~70才の方が5才刻みで受けられる「500円歯周病検診」受診者を増やすことを求めました。

ひきこもるには理由がある

ひきこもり当事者と家族の高齢化が社会問題となっています。心ない言葉や態度で深く傷ついた人は、自己肯定感が低く、支援を求める価値が自分には無いと考えがちです。「あなたがよりよく生きるための手助けを市がします」と、必要な人に届くように発信することを求めました。また、地域での居場所や短時間でも働ける場所等の、受け入れ先の充実も要望しました。



2018年に平和公園に指定管理者制度が導入され、墓参者へのサービスが向上したことなどの効果を踏まえ、桜木霊園にも同制度が導入されることとなりました。ベンチの増設、トイレの洋式化、合葬墓における「献花の日」の実施などが提案されています。墓地利用者へのアンケートの実施方法を工夫し回収率を高めることにより、墓地事業の改善につなげてほしいと要望しました。

桜木霊園も指定管理に